

大 建 第 146 号

平成20年10月14日

国土交通省道路局長 殿

鹿児島県曾於郡大崎町仮宿 1029

大崎町長 東 靖 弘



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日 国道企第37号で依頼がありました意見・提案につきましては、別添様式のとおり提出いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

鹿児島県大崎町

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

地方における、社会基盤整備のありかたについては自主財源に乏しい中、地域の要望に対し、早期の対応とその効果を発揮するまでに長期の時間を要している。

地域の安全・安心な生活を守り、地域経済の着実な振興を図るためには交通ネットワークづくりは、危機的な財政状況下での安定した道路財源の確保は欠かせない。

真に必要な道路整備の計画的な推進と早期完成を図るため、道路整備費の財源確保に明確な対応をお願いしたい。

また、地域と地域を結ぶネットワーク作りは、主要地方幹線道路の整備も平行して整備を推進し、その効果の実現に配慮願いたい。

地域社会を支える道路行政については、道路整備の進行に伴い維持・管理に地域住民の協力や、ボランティア活動などによりその機能を維持している現状の中、高齢化の進行などで維持管理費用の増大は地方財政にとって重要な課題である。地域内交通体系の分権改革における権限委譲については、維持軽減の図れる施工、構造等の実施と併せて、維持・管理費財源等の確保に必要な措置(交付金等)を講じていただきたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

鹿児島県大崎町

○現状

本町が総合計画に掲げる基本理念は、「ひと・もの・自然調和が奏でる躍動の町」づくりとして豊かな自然に抱かれた都市住民「ひと」や生産活動から生まれる「もの」が安全かつ迅速に移動交流するためには、高速道路を基幹とする幹線道路の整備は欠かせない。

交通体系の変化による、住民の生活圏域の拡大や利便性の向上から食料基地としての地域振興など活性化を図らなければならない。

地域や施設へのアクセス道路網の整備は、利用者がより安全に、かつ便利で快適に利用することによって地域間交流が広がりまた、東九州自動車道の整備による交通体系の変化に伴い、住民の生活圏域が拡大し、市町を超えた広域的な交流が、本町産業の活性化と地域振興につながるものと期待している。

本町のみなぎる力の躍動は、白砂青松の風光明媚な海岸線と、並行して走る国道 220 号線沿いに位置する活性化交流センターあすばる、ふれあいの里都市公園を拠点として、豊かな自然に包まれ、訪れるひとたちの癒しと活力の源であるが、志布志湾に流れ込む田原川、菱田川の2河川(2級)河口部は流出部分の蛇行によって海岸線を大きくえぐり、浜がけの発生により風光明媚な海岸線とうたわれた景観が著しく変化し危険な状況にある。

○課題

本町は、東西8Km、南北に18Km と細長く南部は志布志湾と平行して国道 220 号線、北は国道 269 号線が横切る。東西の中心部を(A)県道大崎輝北線が二本の国道を結び、西側を(B)県道黒石串良線が走り、北西部の(C)県道高隈内ヶ迫線、北東部の(D)主要地方道垂水大崎線が 269 号線に連結し、近隣市町や高規格道路へのアクセス基幹道路である。

(A)県道大崎輝北線

本町北部を横切る国道269号線から鹿屋市輝北町を結び鹿児島空港への最短基幹道路であり、沿線を形成する民家集落入り口付近はカーブが多く幅員が狭いため大型車両の離合に特に支障をきたしている。

(B)県道黒石串良線

肝属南部地域から大崎を経由し、都城方面および国道504号線を通じ鹿児島空港等をむすぶ産業振興の重要路線であり南北に走るこの県道の中心位置を交差する大隅中央道(前称グリーンロード)は本町東西の最長部を横断して、町道持留中沖線として利用され、東西南北へ車両の流れの変化点である。この路線をとりまく沿線・近隣には日本の食を支える食農企業を多く抱え近年、急激な交通量の増加から沿線住民の危険度も高く、接触事故等も発生している。

(C)県道高隈内ヶ迫線

国道269号線から一部県道大崎輝北線を経て鹿屋市高隈地区を結ぶ周辺地区住民の重要な基幹道路であり野方地区の中心に位置する公共施設や通学路指定道路として、また防災非難箇所に通じる幹線道路で極めて重要な路線であります。道路幅員が狭く、急カーブを含め未改良部分が大変危険な状況にある。

②-2 地域の目指すべき将来像

鹿児島県大崎町

本町では、自然体験型の観光が中心であり、広域交流活性化センターあすばるから「おおさきはおしゃれなまちさ七キロの銀と緑の帯しめる」とうたわれた砂浜と松林を生かし、くにの松原(日南海岸国定公園)周辺へ自然体験型ツアーが多く訪れており、海岸から投げ釣りや地引網など海浜レジャーが盛んである。

志布志湾の海岸線は、台風が来るたびに高潮等の影響を受け、浜ボウフウや浜エンドウなどが生息する自然豊かな海岸線が、浜がけの発生や砂浜の消失によって、自然景観の環境は悪化するばかりである。

海岸の東側(志布志市)においては保全事業等により人口リーフが設けられ、その効果は砂浜が戻って昔の海岸線になりつつある。この海岸地域周辺では、大隅スポーツ交流拠点プロジェクトにおける事業として1)ビーチスポーツの拠点づくり 2)広域的なスポーツ大会の誘致活動とその拠点づくり 3)自然環境保護の精神を醸成すること 4)スポーツタウン大崎の実現に向けた調査・研究など交流拠点を舞台として、スポーツ(ビーチバレー、フットサル等)を通して人々の交流や地域間交流による活性化を目的に活動を進めている。

本町に面する海岸線においては、海岸保全区域の指定がなく、保全事業の導入ができていないため海岸保全区域の指定を強く望んでいる。

これらの地域や施設へのアクセス道路網の整備は、利用者がより安全に、かつ便利で快適に利用することによって地域間交流が広がりまた、東九州自動車道の整備による交通体系の変化に伴い、住民の生活圏域が拡大し、市町を超えた広域的な交流が、産業の活性化と地域振興につながるものと期待している。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

鹿児島県大崎町

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○ 重点事項 野方地区 I・C の新 設要望	○ 代表事例 インターチェンジ間の設置位置はおおむね10 km前後の計画であるがこの地域の I・C 間は 18k 余りと距離が長いため不便である。	○ 期待する効果や評価等 利用効果の増大と地域産業の活性化	○その他